

令和 7 年度第 3 回堺市文化芸術審議会議事録

1 開催日時

令和 7 年 8 月 28 日（木）13 時 30 分～15 時 30 分

2 開催場所

堺市役所本館 3 階第 1 会議室

3 出席委員（50 音順）

雨森信委員	（インディペンデントキュレーター）
	（クラリネット奏者
稲本渡委員	神戸女学院大学音楽学部准教授
	堺親善アーティスト）
井上信太委員	（美術家）
坂成美保委員	（読売新聞編集局編集委員）
永井泉委員	（公募委員）
永島茜会長代理	（武庫川女子大学准教授）
藤野一夫会長	（神戸大学名誉教授
	芸術文化観光専門職大学名誉教授）
藤原麻喜子委員	（公募委員）

4 出席議事関係者（50 音順・敬称略）

上田假奈代（堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター）

5 事務局職員

文化観光局長、文化国際部長、文化課長、文化課長補佐、文化課企画係長ほか

6 関係者

公益財団法人堺市文化振興財団事務局長、総務課長、事業課長、事業課係長、堺市民芸術文化ホール副館長、企画制作担当課長

7 議題

(1) 第3期堺文化芸術推進計画の骨子案について

8 議事録要旨

開会

<事務局より説明>

議題

(1) 第3期堺文化芸術推進計画の骨子案について

◎藤野会長

早速議題に入りたいと思います。

それでは、「議題(1)第3期堺文化芸術推進計画の骨子案について」、事務局からご説明をお願いいたします。

<事務局より説明>

◎藤野会長

前回、皆さんからお聞きしました意見を取り入れて、第2期計画と同じ記載になっているところもありますが、かなり改善されていると思いました。議論ができるのは今回が最後になりますか。

●事務局

骨子案を本日ご議論いただいて、この骨子案に基づいて計画本編を作成し、次回の10月に開催する審議会においては、計画本編の議論をしていきたいと思っております。大きな方向性やメインとなるところを議論するのは本日最後になるかと思います。

◎藤野会長

10月の審議会では計画本編を議論・検討するということですので、大きな方向性の骨子案の議論は今日が最後となりますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。

●文化観光局長

事務局で検討している内容について、骨子案に描き切れていない本質的なものを少しお伝えします。

重点的方向性1は、文化芸術とともに生きるという最初の部分で、文化芸術が少し高尚な

もので、敷居が高いというふうに思われるかもしれませんが。そうではなく、文化や芸術というのは、映画鑑賞や本を読むことも含め、色々なことが文化芸術に繋がるので、敷居を低くした形で、実は誰もが皆文化芸術とともに生きているんだということを知ってもらえたらと話しています。生きる上では、身近にある文化芸術が潤いを与え、生きていく上で必要であることも含めて、幅広い層にも届けることが今回の評価指標にも繋がっているかと思います。

重点的方向性2は、学校や園のこどものことですが、今はテクノロジーやAIがすごく進んでいるのですが、やっぱり人間的なこと、人として必要なものが文化芸術等に触れることによって、上手くテクノロジーを使いこなせることや上手くコミュニケーションを取れることにも繋がらないかと思っています。また、文化芸術の大事さ、大切さというものがこどもを育むということにも繋がるのではないかという話をしておりました。

重点的方向性3は、茶の湯まちづくり条例を作ってからどうなったのか、歴史をもう一回振り返ってみようかということで、お茶といえば、やはり京都府宇治市や島根県松江市あたりが一般的に浮かぶと思います。同じような自治体条例を作っているところは他にもありますけれど、そこと比べて堺に茶の湯というイメージを皆さんが持っているのか、それを市内、市外の人にも認知度が上がる取組をこの5年間の計画の中でしていかなければと思います。

◎藤野会長

芸術文化が持っている手段的な価値、道具的な価値というのと、本質的な価値というのがありますが、その本質的な価値は一体何かと言われても、私はその研究を何十年もやっていますが、一言では言えません。

どうしてもこういう審議会では芸術の本質的な価値というのをすごくおちゃらかしちゃうことが多いのですが、できればその芸術の持っている本質的な価値というところに、皆さんの目線が合うようにはしたいなと思っております。で、今回はそこにすごく近づいたような気がします。

それから重点的方向性2の、「文化芸術で」ではなく、「文化芸術が」こどもを育てるという一字の違いですが、やっぱり「文化芸術で」の場合は手段的な価値になってしまいます。文化芸術はこどもの時に重要だという、相対化されたものになってしまう。それは悪いことではないけれど、やはり文化芸術こそが人づくりの根本にあったというところまで踏み込めるような書き方なので、一字の違いですが、文化芸術が主語になった、主体になったというのはすごく大きな意味があったと思います。

それから全ての人というのも難しいですね。()の中にはこども、若手世代、子育て世代、現役世代とありますが、実際、現役世代が一番文化芸術から遠いというのは自分自身でも実感しているところで、現役世代が文化芸術に触れる機会が増えないことが今の社会全体をおかしくしているのではないかと思うくらい重要な問題だと思っています。

こどもや現役世代、高齢者、障がい者、外国人等を全ての人に含んでくれていますが、ターゲットグループに即した支援を具体的にどういうふうにするかというところを計画で

落とし込んでいく必要があるのかなと思います。

この方針についてご意見いただければと思います。

○雨森委員

「重点的施策 2-1 未来の文化芸術を担うこどもたちへの文化芸術に触れる場の提供」となっているのですが、提供だと上から目線に感じるところがあるので、例えば、触れる場の創出や共創のほうが良いのではと思います。

説明文に記載されている「こどもたちが文化芸術に触れる機会を増やすため、芸術家の育成を推進する。」は、かなり限定的な表現だと思いました。ただ、そこに特化するというのが次の計画の特性になるのであれば良いかとは思いますが、そのところが少し気になりました。

「重点的施策 1-2 フェニーチェ堺等の文化施設を活かした堺の魅力発信」は前回重点的方向性 3 に入っていたのが、重点的方向性 1 にきているかと思います。堺の魅力発信が重点的方向性 1 に入ってきているのが、無理やり感があるかと思いました。

●藤野会長

ありがとうございます。

とても重要な指摘で、「重点的施策 2-1 未来の文化芸術を担うこどもたちへの文化芸術に触れる場の提供」は、触れる場の提供ではちょっと上から目線的なので、創出や共創に変えるのが良いかなと思います。

「重点的施策 2-2 こどもたちの育成に寄与する芸術家の育成」は、他にはない堺の特徴であると言えますし、また、こどもたちに限定するということについては皆さんの意見をいただきたいと思います。

「重点的施策 1-2 フェニーチェ堺等の文化施設を活かした堺の魅力発信」というのは、内から外に向けてという感じになりますし、その反対は地域アイデンティティということになりますが、両方を兼ねる言葉はないですね。

○雨森委員

魅力発信を重点的方向性 3 に残しつつ、フェニーチェ堺や文化施設を活かした文化芸術活動の活性化というようなことはありかなと思います。

●事務局

重点的方向性 1 の説明文にも記載していますが、利用者の増加に繋がると書いてあるんですね。利用促進やその企画がたくさんされているようなイメージを持って書いてあります。

○雨森委員

実はそこも少し気になったのですが、施設の魅力を発信するというよりは、施設の活動を充実させることによって利用者数が上がるのかなと思っています。

ここで言われている稼働率が貸館の稼働率だとすると、活動を充実させるということは違ってくるのかなと思います

●事務局

重点的施策 1-1 が、文化芸術活動や主体的な事業も含めて、多彩な事業を持ってやっていくことに魅力をあげるというのは、一つ目の説明文のところかなと思います。

もう一つは、私たちの施設を使っていただくことで、文化芸術活動の活性化に繋がることをイメージしています。「主催事業と貸館事業」という言い方で言うと、そのイメージになります。

◎藤野会長

重点的方向性 1 を第 2 期計画と同じように戻しているのも、そのあたりの整合性が必要かもしれません。

○雨森委員

ちなみに施設の稼働率が低い要因というのは施設の魅力が発信できていないということなのでしょうか。

○上田プログラム・ディレクター

補助金採択者から聞くと、フェニーチェ堺はいつも予約が取れないと聞いております。

◎藤野会長

第 2 期計画の評価指標を見ていると、文化施設利用者数は目標値に届いていないですね。目標値を高くしすぎたところもあるのでしょうか。

●事務局

次の評価指標については変更する見込みです。

稼働率については、堺市が所管する施設だけが文化芸術の拠点ではありませんが、それを大きく担っているホールが各区にあります。稼働率を上げるということよりは、各施設には特性や様々な部屋がありますし、利用用途も文化芸術に限っているわけではないので、まずは施設を使っていただくことが文化芸術とともに生きるという概念の拡大に繋がると思っております。

地域会館で言うと料理室や工芸室みたいなお部屋もあります。茶道などの和室もあるのですが、そういった特性がまだ伝えきれていないところもあります。フェニーチェ堺に関しては 9 割ほどの稼働率ではあるのですが、そういうところはまだ課題というか、そこに来ていただいて、感じていただく、味わっていただく、見ていただく余地はあるかなというふうに思っています。

魅力発信ということについては、まだ見直しの必要があるかなと思いますので、再考した

いと思っております。

先ほどの芸術家の育成を推進するということですが、前回の審議会で堺市文化振興財団事業係長からご説明させていただいた通り、芸術家の育成、こどもたちが文化芸術に触れる機会を増やすためだけではなく、例えば、著名なピアニストを輩出することも文化芸術の施策の一つだと思っております。

しかしながら、現状、堺市に関しては、どこに税を投じて施策をやっていくかという、世界的なコンクールのピアニストを輩出することに注力するよりも、「こどもたちの育成に寄与する芸術家の育成」に注力するイメージを持っております。もちろん芸術家を育成することを否定しているわけではありませんが、施策としては、この点を押していきたいと考えております。

◎藤野会長

ありがとうございます。魅力の発信というと外向けの言葉になるのですが、フェニーチェ堺をはじめとする市内の文化施設の使用価値を高めるということが経済学的に正しいのかなと思います。発信するというのは、簡単に言うと伝えるということですが、その伝えるということが不十分で、基本的な認識がまだ伝わっていないという感じですね。

●事務局

そこは行政側も、すべての堺市民に伝えきれていないところもあり、課題はあるように思っております。あとはソフト事業やハード面の発信等が、まだ開拓する余地があるかなと思います。

○堺市民芸術文化ホール企画制作担当課長

ここでおっしゃっている稼働率は、部屋を使用されるということのお話かと思うのですが、今人口が減少している中において、文化に携わる人もすごく減っていると思います。そういった中で、施設の魅力をPRすることだけで稼働率を上げていくというのは非常に厳しいと我々は実感しております。むしろ文化芸術に携わる人々を増やさないといけないのかなと思っております。例えば、文化団体の増加等、そういったところから使用者、使用率が上がっていくと思うので、そういうところにマッチした言葉にさせていただくほうが一番フィットするのではと思っております。

○公益財団法人堺市文化振興財団事務局長

地域文化会館を預かっている中で、ご指摘はまさしくその通りだと思うのですが、書き方が漠然としすぎかと思えます。事実として本市の現状の中で稼働率が伸びないのはその通りなのですが、館を利用する人には、自らの活動をするために利用される能動型の方と、一方、コンサートやいろんなイベントを見に来られる人たちのように受動型の方と、大きく分けるとその2つになります。そういう中で南区にある榎文化会館においては、人口の急激な減少、高齢化している中で、今まで高度経済成長の時に入居されたニュータウンの人たちが

文化活動されていたのですが、もうされなくなってしまうのです。それは施設の情報発信の話とは基本的には違うというふうに思います。

そうは言っても、稼働率を上げるためにも文化活動をする人たちを掘り起こさないといけないというのが一つと、今まで地域文化会館ではあまり行ってこなかった主催事業に来てもらうような事業をしていかないといけないと思います。地域会館の管理施設が樺文化会館 1 館になりましたが、今年からの指定管理期間でソフト事業を重点的にやって行こうと思っております。

しかし、各地域のあり方や館の考え方によっても違うと思うので、大きくまとめるのはなかなか難しいのではないかと、ましてや中枢文化施設であるフェニーチェ堺と一緒にするのは少し無理があるように思います。

◎藤野会長

「フェニーチェ堺をはじめとした」という書き方が誤解を招くかもしれません。「フェニーチェ堺はもとより」と書いて、重点は地域文化会館の方だという風に読めるようにすればいいんじゃないですかね。フェニーチェ堺はほぼ目標を達成しているということでしょうか。

○堺市民芸術文化ホール企画制作担当課長

はい。利用者数に関しましては達成をしております。稼働率は、若干増減はございますけれども達成しております。

◎藤野会長

このテーマはまた事務局と協議をしたいと思います。

「重点的施策 2-1 未来の文化芸術を担うこどもたちへの文化芸術に触れる場の提供」について、触れる場の「提供」を「共創」としたとして、繰り返し感があるのと、文化庁の動向のところで、「文化芸術を通じた次代を担う子供たちの育成」というのもありましたので、目的は未来の文化芸術を担うだけじゃないと思います。文化芸術の担い手を次の世代に繋げていくというのはすごく重要なことで、これはアーティストだけではなくて、観客の育成も必要ですし、それからマネジメント人材の育成も、芸術の担い手としてすごく重要だと思います。

文化施策という行政の目的というのは、やはり市民社会ですね、市民社会を主体的に担っていく人格形成において、文化芸術は不可欠だという点だと思います。それが、「文化芸術がこどもたちを育てる」ということに繋がってくると思います。

市民社会が担っていく人づくり、人格形成という観点からすると、目的を未来の文化芸術を担うというふうに狭めてしまうよりも、「未来の市民社会を担うこどもたちへの文化芸術に触れる機会の共創」の方が良いのではないかと思います。市民社会というのは馴染みがないので、もちろん地域社会という言葉を使っても良いのですが、これからはローカルとグローバルの総合作用というのがすごく重要になってくるので、両方の意味を含むのが市民社

会だと思えます。

重点的施策 2-2 の方で、芸術家の育成というのがありますが、これはかなり特徴的なもので、2-1 は普遍的な観点がいいような気がします。

○井上委員

骨子案の内容については今の内容で概ね良いと思えます。大事なのはこの計画を作った後にどのような事業をやっていくかだと思います。

芸術家の育成といっても、具体的に何をしていくのか、若手のアーティストや音楽家の方にスタジオを提供する、企業と一緒にコラボレーションする等、そういうバックアップするような場が必要だと思っています。私は堺市出身なので、堺ならではのワクワクするようなものを作り上げたいです。

文化芸術とはなんぞやという感じで、私は現代美術の作家なので、もうワクワクしないと興味を持てなくなると思えます。今、病院で小児ガンのこどもたちと一緒に万博のイタリア館でもワークショップをやりますけど、そのこどもたちや親御さんも含めてワクワクするものづくりをできればと思っています。

だから今回皆さんが審議をやっている中で、どれだけワクワクしているのかというのがすごく気になっています。実際に芸術、文化に触れていたらやっぱり楽しいと思えます。審議会委員にもなりましたし、色々な現場に見に行って、そこで色々なものを伝えていきたいなと思っています。

この骨子案の中で、一番気になるのがお茶の文化でして、千利休のさかい利晶の杜の盛り上がり方ですが、堺市民はそんなにワクワクしていないですね。だから、もう少しお茶と音楽、お茶とダンス、お茶とグラフィティ等、コラボしてそういうものを若い人たちもかっこいいと思えるようなものにするのはどうでしょう。

こどもたちとお茶の茶菓子を作ったりしますが、もっともっとみんなが堺のお茶の文化に誇りを持てるような場づくりをしていかないといけないと思います。

堺市民の方にもきっかけを与えるだけで、ものづくりや文化等、知らぬ間に文化芸術を感じ取ってもらえるのではないかな。できればもう少し緩やかに、知らぬ間に文化芸術を嗜んでいるような場づくりをして、「堺は面白い」というふうに持っていきたいなと思っています。

◎藤野会長

今すごく良いヒントをいただきました。さかい利晶の杜はすごく良い施設ですが、茶の湯 1 本だとなかなか先が見えないので、他の分野とのコラボレーションを積極的に仕掛けていくというのはすごく良いアイデアだなと思います。昨年視察しましたきむらとしろうじんじん氏のイベントもかなり良かったですよね。

今、指定管理で運営が行われていると思いますが、指定管理のもとで、そういうコラボをやってくださいというのは市側から言えるものなのでしょうか。

●事務局

協議はできると思います。今も大阪交響楽団さんと一緒に演奏してお茶を飲むという事業をやっているんですが、別々でやっています。まず演奏を聞いて、その後に茶室に行ってお茶を飲みます。

市から指定管理者に対して、協議をした上で、皆さんが面白いと思ってもらえるようなコラボした事業を作り上げることができると思います。

○稲本委員

基本的に現在の骨子案で良いと思っています。特に重点的方向性2の(▶)の説明文が私は良いなとは思っています。

この重点的方向性2の3つ目の(▶)の部分ですが、「学校や教育委員会と連携し、学校部活動…」のところで、さっきおっしゃっていましたがフェニーチェ堺は吹奏楽をすることもにとっては聖地になっており、吹奏楽をやっている関西の人たちは、堺をめざしてくる訳です。なので、部活動の地域移行等が今進む中で、こうやって書かれているということは、堺市としては部活動の地域移行、地域展開に関して力を入れていくという方向で良いでしょうか。

●事務局

部活動の地域移行、地域展開自体は、文化のセクションとスポーツのセクションの代表が部活動の庁内委員会に参加をしています。先般、国の方針が出まして、令和13年度までに地域展開を実施していくということで、堺は令和8～10年と11～13年と前期後期に分けて、地域展開を進めていく形をとっております。「重点的方向性2文化芸術が子どもたちを育てる」という形で書いておりますので、部活動もちろん含まれており、その中でも吹奏楽部の存在が非常に大きいと思っております。

地域展開自体は、まだ現実的にどうやっていこうという面に関しては、例えば神戸市や京都市も部活をやめますという形で宣言をしておりましたが、堺はやめるというよりは、教育の関与を残しつつ、どう地域に下ろしていくかということをイメージして取り組んでおります。

教育的意義を残しつつ、例えば、稲本委員のような地域の方と協働しつつ、子どもたちにどう良い影響を及ぼせるかというようなことのイメージをして、このような文言にしております。

○稲本委員

そういう文言が入っているというのが良いと思います。部活動をやめた他の市は一気に水準が下がっています。そういった中で力を入れるというのは、逆に一気に上がれるチャンスでもありますね。

●事務局

教育委員会が生徒に対してアンケートを取ったのですが、かなりの生徒が続けていきたいという声があったので、一気に部活動をやめるという政策はとらずに、ソフトランディング

グの方向性をとっています。

◎藤野会長

これまでの審議会でもお話しましたが、地域差がずいぶんあるなと感じがしています。移行の手段も違いますし。スポーツ系は良いのですが、文化系では吹奏楽部ですが、これはもう絶対外せないですよ。でも文化部はそれだけじゃないじゃないですか。文芸部だったり、茶道部だったり。お茶やお花とかそういうのもある訳なので、そういったところまでちゃんと行き届いているかというのはすごく気になるところです。

●事務局

堺市の議論の中でも、前期においては、休日の部活動をどうにかしていこうとなっております。文化部活動だと、吹奏楽は土日が中心になるので、吹奏楽部の土日をどうしていくかという議論をしています。

後期においては、いろんな文化部活動がありますので、中学生が文化に親しむ環境を作り続けるために、その部活動をやめて、どう地域移行、地域展開という形に置き換えていくか議論を進めていくところです。議論はまだ途上です。

◎藤野会長

そういう議論している組織は、教育委員会が中心ですか。

●事務局

そうですね。教育委員会が中心となって、そこに市長部局のスポーツ推進課と文化課が参画をしているという形です。

○坂成委員

私も文言については特にふさわしくないというのは、どの項目についても思っています。

「重点的方向性 1 文化芸術とともに生きる」のところで、先ほどのお話であったフェニーチェ堺の施設の魅力というお話の中で、箱物としての施設の魅力というものは、作っているコンテンツの中身をプロデュースする人材なり、プロデュース力、制作力を上げて充実させるのが望ましいかと思います。堺は中身の良いものが作れるので、堺で作った公演なり面白いものがあれば、必ずしも堺市内でだけ上演するのではなく、例えば東京都等外にも出ることとで魅力の発信に繋がるのではないかなという感想を持ちました。

箱物としての劇場や会館を、こんな施設ですよという有効発信しても、あまり意味がないのではないかなというのが感想です。

◎藤野会長

それに関連して、この前八尾市のプリズムホールで、ご当地オペラが上演されまして、そ

れが8回目の上演でした。そもそもご当地もののオペラというのは、記念事業として有名な作曲家に依頼して、1回だけ上演してお蔵入りという残念なケースが日本中で見受けられるのですが、八尾市では8回繰り返し上演されていて、それが私にとっては謎で観に行きました。そしたらやっぱり盛り上がり方が半端ではなくて、地元の八尾市のお地蔵様をご本尊のお寺の伝説に基づいて表現されているんですけれども、それが元になっていて、話の内容が良いのと、それを作るときに八尾のアーティストや市民たちがムーブメントを起こして、文化会館と一緒に繰り返し再演していました。それから、本当に文化資源をもう使い切ったすごいなと思ったのが、最後に河内音頭で大団円になって、舞台も客席も全部河内音頭一色になるという夢を見ているような舞台で、河内音頭の保存会の人も何百人も出てきて踊るという、ご当地オペラも8回も再演されて、市民に支えられているというのはすごいし、良いお手本を見たような気がしました。

○堺市民芸術文化ホール企画制作担当課長

フェニーチェ堺では今年の2月に第九コンサートをやりました。市民の合唱団を形成しました。やっぱり市内で文化活動したい、でもその場所がなくて、公共ホール等でやると、非常に参加しやすいみたいで、初めての方はやはりそういうところからのスタートじゃないかなと思います。

また、施設の魅力をどれだけ伝えても、やっぱり20年を超える地域文化会館が多いので、どうしても限界があると思います。フェニーチェ堺の人気があるのは、やはり綺麗で、新しく、使い勝手が良いと思います。まだ出来て5,6年の施設なので、多少高くてもお使いいただけますが、やはり20年を越えてくると、地域会館ではそういう訳にはいかないと思います。そこには料理室がありますよ、陶芸室がありますよと言ったところで、なかなか最初の一步には近づかない。そういうホールが、地元の文化資源を活用しながらのソフトを見せることで、もしかしたら文化活動の一步が進むのかなとは思っています。

なので、第九コンサートなどは非常に入りやすかったみたいで、初心者コースと経験者コースを設けましたので、「初めてですが、大丈夫ですか」というような、初めて文化活動に携わろうとする方々に応募していただけたので、本当にソフト事業からなのかなと、私も実感しております。

○永島委員

「重点的方向性 1 文化芸術とともに生きる」の部分に記載されている子育て世代というところが少し気になりました。子育て世代というと、その世代はみんな子育てするのが当たり前みたいになっていて、そういう圧力に苛まれている人も結構いると思います。子育てせずに自由に生きたい方もいると思うので、子育て=全てという前提で書かない方が良いかと思います。「子育て世帯」という書き方でも良いと思います。世代と言われてしまうと、20代から40代は子育てしなさいみたいな感じに聞こえてしまうかと思いました。

「重点的方向性 2 文化芸術がこどもたちを育てる」で、芸術家の育成が議論になっていくことで、その計画の中だと、堺ならではのモデル・オリジナリティあるものをイメージして

盛り込んでいくことも良いかと思います。

それと、堺という文字をたくさん入れていただいて、だいぶ堺らしさは出たと思うんですけど、「重点的方向性1 文化芸術とともに生きる」のところで、仮の提案ですけど、「堺で文化芸術とともに生きる」という風にすると、堺で生きていくんだという想いが見えるかなと思いました。

これで最後ですが、ロゴが散りばめられていて、アーツカウンスルと茶の湯が生きづく堺というのがあるのですが、「重点的方向性2 文化芸術がこどもたちを育てる」ではロゴがなくて、何かそういうロゴとかあったりするのですか。

●事務局

ロゴは知ってもらいたいなという気持ちで入れましたが、2つ目がなくてこのような状況になっています。

◎藤野会長

永島委員がおっしゃる子育て世代というのは、やっぱり子育て圧力を感じます。子育て世帯の方がまだニュートラルかと思いますので、検討してください。

●事務局

子育て世代の部分は子育て世帯も含めて、事務局で文言を検討して皆さんにご提示します。

○永井委員

先ほど井上委員のお話を伺って、井上委員が耳原総合病院のコミュニティセンターでされたマグネットアートに私もこどもと一緒に参加しましたが、学校や文化施設だけでなく、福祉施設や老人施設等、そういうところにも芸術家関わっています。そういったところで活動する芸術家の育成も大事だと思いました。それが芸術文化の敷居を下げることにも繋がるのではと思います。

「重点的方向性2 文化芸術がこどもたちを育てる」で、学校園や文化施設等の「等」に含まれるかもしれませんが、福祉施設や老人介護施設等も含まれていることがわかるかと思いました。

「重点的方向性3 歴史と文化を未来へ伝える」で堺ならではの茶の湯文化という記載がありますが、堺ならではの茶の湯文化がどういったものなのか、それは既に他の地域とは違う堺ならではの茶の湯文化があって、それを更に広げていくということなのか、あるいは、堺ならではの茶の湯文化を新たに育てていくということなのか。どちらなのかと思いました。正直なところ、堺には他の地域とは違う茶の湯文化があるとは思えないですね。周りでも堺にはいっぱい和菓子がありますよね、とはよく言われるのですが、堺ならではの茶の湯文化というのは、まだ難しいのかなと思います。新たに茶の湯文化を作っていく解釈でよろしいでしょうか。

◎藤野会長

ありがとうございます。重点的方向性3で、かなり茶の湯のことは今回重点化していますので、ご指摘のあった堺ならではの茶の湯というのは本当に現存しているのか、さかい利晶の杜を拠点としてこれから再創造するということなのかです。

●事務局

堺ならではの茶の湯文化となったときに何が堺ならではの文化なのか、作法やしきたりみたいなものは、千家から受け継がれたものがいろいろあります。堺で育まれた歴史も含めた、茶の湯文化みたいなものを発信するということも、他にはない特徴の一つかなとは思っています。

それがさかい利晶の杜で表現されているところもあると思いますし、これからは具体的にどういったものが育まれていくのかというのはあるのですが、茶の湯まちづくり条例を作った時に、やはり千利休が生まれた場所として、総合芸術である茶の湯文化という背景の中で、おもてなしの心や精神性の部分も含めて発信していくということで取り組んでおります。

それが堺ならではのと聞かれた時に、どういうふうに皆さんに堺のものとして認識していただくかというのは、今ある歴史的な資源を含めて、発展的に考えていけたらというふうには思っています。

◎藤野会長

ありがとうございます。

もう一点、学校以外での福祉施設との連携についてですが、実際になさっていると思いますが、特にこども食堂は特徴的だと思いますので、そういうものを書き込めるとしたら、こどもたちを育てる方なのか、ともに生きる方なのかどちらになるのでしょうか。

●事務局

福祉施設や病院といったものは、まさしく社会包摂事業の中での取組なので、主に重点的方向性1に含まれるかと思います。

◎藤野会長

重点的方向性1の(▶)のところが2点あって、後半が施設のことになりますが、病院や福祉施設も入れても良いかと思いました。また事務局と調整できたらと思います。

○藤原委員

重点的方向性1について永島委員がおっしゃったように子育て世代を子育て世帯と記載する方が良いかと思いました。

また、重点的方向性1の(▶)の部分で、全ての人の()書き部分を若年世代・子育て世

代・現役世代と「・」で併記されているところはあらゆる方が含まれているという意味でよく配慮されているかと思います。子育てされる方は現役世代に含まれているかと思うので、そのあたりの書き方をどのようにするかと思います。

「重点的方向性2 文化芸術がこどもたちを育てる」の評価指標が文化芸術鑑賞又は体験した人数となっていますが、子育て世帯が住みたいと思うまちに選ばれることをめざすとするのも良いかと思いました。重点的方向性が大きく打ち出しているので、評価指標も大きくしてはどうでしょうか。

◎藤野会長

子育て世帯が住みたい街を文化芸術によって作ると言うのは簡単ですが、エビデンスは難しいですね。なぜ堺に移住したのかというのが、本当に文化芸術が引き金になっているかどうかの実証は難しいと思います。

○藤原委員

重点的方向性3の評価指標で「さかい利晶の杜、伸庵での呈茶体験数」と書かれている人数には、堺にお住まいの方、市外からお越しいただいた方というデータはわかるものでしょうか。

●文化観光局長

事務局で検討する中で、茶の湯文化の浸透を考える際に市内と市外は分けて考えるようにしています。藤原委員のおっしゃるように細かいデータはあっても良いかと思います。市内と言うと堺スタンダードという小学生が茶の湯文化に触れる機会が独自であります。各区役所でおもてなし茶会ということもやっています。市内向けの取組、茶の湯ロゴのような市外向けの取組や指標はターゲットを考えて実施するようにしたいと思います。

●事務局

ただ、今回の指標で市内市外を分けるのはなかなか難しいというふうに思います。それぞれ体験した人にどこにお住まいですかと聞かないとカウントが取れないということになるので、それは難しいかなと思っています。

●文化観光局長

市外からの指標はイベント時のアンケートであるとか、ポイントになると思います。何らかの形で取ることはできるかもしれませんが、それを指標にするよりは参考する方がよいかと思います。

○永井委員

先ほどの藤原委員がおっしゃった子育て世帯が住みたいまちということで、堺市北区はこどもの数がかなり多いと思います。一部かもしれませんが、こどもが多いということが堺

の特色になったりしないのでしょうか。

●文化観光局長

堺区や北区は多いかもしれませんが、今後こどもの数は減少していきます。一部増えているところがあるかもしれませんが、堺市内でも減少しているところはかなり減少して人口格差は広がっていますので、こどもが多いことが堺の特色とは言えないかと思います。

◎藤野会長

堺市内でのその人口格差が起きている分析はできているのでしょうか。

●文化観光局長

やはり交通アクセスの良い都心部に集まっているのが現状ですね。南区は人口の減少が大きく、都心部との差が大きくなっています。

◎藤野会長

約 50 年前にニュータウンが出来て、少子高齢化が進むのは歴然としていますね。アクセスの良いところにマンションが出来て子育て世帯が流入してこどもの数が増えていくことはあり得るのでしょうか。

堺市内の人口格差を踏まえた文化政策でカバーできるようになれば良いかもしれません。堺市は大きいので特に必要かもしれませんね。

●文化観光局長

各区に文化会館や地域会館があるので、その施設をどのように使っていくか検討する必要があるかと思います。

○永島委員

子育て支援も良いですが、やはり若者やレジデンス等、もう少し面白いことをやる方が着目されやすいですし、子育て以前の話だと思います。子育ての前の問題で若者は出会わないし、結婚もしないし、結婚しないとこどもも産めないということで、もっと自由に生きられるようになった方が良いかもしれません。骨子には入れなくても本編にはそういったことを入れた方が良いかもしれません。

○井上委員

東京ではタワーマンションが出来て、こどもが増え新しい街がどんどん出来ていっています。ただ、文化がないということでワークショップを行ったりしています。堺でも自分たちの街、堺の誇りで「堺は良い」と発信していく、そうならば外からも人は来るでしょうし、堺に住みたいなのも思ってもらえるかと思います。

お茶の話ですが、さかい利晶の杜だけではなくて、いろんな場で堺のお茶の文化を広める

場づくりができれば面白くなるし、そこにはできるだけ子どもたちも参加できるようにすると良いと思います。

最後に、デジタルアーカイブのことですが、これはすごく大事なことで、どうやって残していくのかということが気になっています。できれば子どもたちと一緒に自分たちの街をデジタルアーカイブとして残していく、これは大人がやっても記憶を残すだけなので、次代を担う子どもたちが未来に向けて、自分たちで堺の魅力をデジタルで残していくというコンテンツができれば相当面白いと思います。

例えば、アニメーションや3Dのデジタルを使って、あらゆる街をスマホで見られるようにできるコンテンツを作ること等、子どもたちとデジタルを楽しめるようなものづくりをしていかないと、ただ単に作っても意味がないと思っています。堺からワクワクできるようなことを発信していかないといいません。

◎藤野会長

ありがとうございます。この第2期計画を見ても具体的な事業レベルの書き込みはないですね。自治体によっては、事業レベルで今までやってきた事業や新規として入れる事業、リーディングプロジェクトがあったりします。

今までやってきてはないのですが、今色々なアイデアが出てきて、特に現場アーティストの方はワクワクすることはもう事業レベルでやるしかないということですね。だから今回、形を変えて、事業レベルまで落とし込んだ計画にするのか、リーディングプロジェクトのようなものをいくつか提示するみたいなことになるかどうかですね。

例えば、レジデンスプログラムはすごく重要だと思いますが、やるとなったら決意がいるし、どこがその主体を担うのでしょうか。

●文化観光局長

計画の中に具体的な事業を記載することは考えておりません。5年間の中で事業を実施計画的に進捗管理してもあまり意味がなかったりするので、それは毎年の予算要求の取組の中で進めていくべきものだと思います。リーディング的な考え方ですが、今日は骨子だけではなく、その次のところの意見も頂いたかと思っています。そのあたりは整理させてもらって、また会長とも相談させていただこうと思っています。仮に今作った事業でも2,3年経ったら、環境や社会情勢が変わっているかもしれないので、毎年の予算要求時の取組や、毎年の審議会の中で話し合っていければと思います。

この重点的方向性を持っていくためのリーディング的なものはあっても良いかもしれませんが。頂いた意見をどう消化して、落とし込んでいくかをご相談させていただきたいなと思います。

◎藤野会長

実施主体をどこが担うかという問題もありますよね。アーツカウンシルや財団に任せるのも違うと思いますし、これはまた次回の審議会でも議論できればと思います。

それではお時間になりましたので、審議会を終了します。